

災害時に町民の皆さんに実践していただきたい「命を守る行動・知識」を毎月お伝えしていきます。

災害が起きた後、「もしも1日前に戻れるなら、あの時何をするだろうか」と思いを巡らせる被災者も少なくありません。こうした証言は、私たちに「今後の災害に対しどのような備えをしたら良いか」というヒントを与えてくれます。

今回は、内閣府が取り組む「1日前プロジェクト」に集められた証言の中から、令和6年能登半島地震の被災者3名の言葉をご紹介します。

皆さんも、日頃からできる防災行動や心構えについて考えてみましょう。

「もしも、地震発生の日1日前に戻れたら・・・」

家具を固定しておこうと思います。そしてそれ以上に、家族で「もしものときにどこに集まるのか」「どのように連絡を取るのか」を、事前に話し合っておくべきだったと感じました。実際、地震のあと家族が別々の場所において、不安な時間を過ごすことになりました。

この経験を通して、地震を「自分には関係のないもの」と思い込まないこと、そして避難訓練や日頃の話し合いを大切にすることが、命を守る行動につながるのだと学びました。

(10代 高校生 石川県)



水と高カロリー食品、簡易トイレ、毛布を車に入れ、ガソリンも半分を切る前に満タンにしておきたい。小銭も用意しておきたい。

寒さも不安もつらい。でも一番困ったのはトイレでした。水も想定より早く減り、温める手段もないから食欲も落ちる。スマホ決済は電気がないと使えず、細かい現金がなくて買えない場面もありました。

支援は必ず来ます。でも来るまでをつなぐ備えが、命と心を守ると痛感しました。

(40代 社会福祉協議会職員 石川県)

携帯電話、通帳、身分証明書、家と車の鍵を一つにまとめ、すぐ持ち出せる場所を決めておきたいです。家が崩れると、どこに何があるか分かっていても取り出せません。身分証明ができず、手続きもお金も思うように動かせない不自由さを痛感しました。水と携帯トイレも、迷わず手に取れる形で置いておきたいです。

次の世代には、揺れたら建物から離れ、広い場所へ逃げることを、そして避難先を普段から確認しておくことを伝えたいです。来ないと思わず、少しでも備えてほしいと思います。

(70代 無職 石川県)



二次元コードを読み取るか「内閣府1日前プロジェクト」と検索すると、上記エピソードの全文のほか、過去の様々な災害における被災者の証言を閲覧することができます。

次回は「家屋・家具の倒壊から身を守る」を掲載予定

【問】危機管理課 ☎0547(56)2237

内装&外装 塗装工事一式
なかむら塗装

静岡県知事許可 第25802号

川根本町徳山936

中村 剛子 (なかむら たかね)

TEL・FAX 0547-57-2840

町リフォーム補助金などのご相談、お見積りは無料です。お気軽にお問い合わせください。